Code: 1454-74712

Ref. No.: N19.12-0030

# JAPANESE PATENT OFFICE PATENT JOURNAL (U) KOKAI UTILITY MODEL NO. SHO 61[1986]-67836

Int. Cl.<sup>4</sup>:

B 01 J 19/12

19/00

Sequence Nos. for Office Use:

Z-6812-4G

Z-6812-4G

Filing No.:

Sho 59[1984]-152077

Filing Date:

October 8, 1984

Publication Date:

May 9, 1986

Examination Request:

Not filed

### FINE POWDER MANUFACTURING APPARATUS USING A LASER

Inventors:

Yasuyuki Yoshida Hiroshima Research Lab., Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. 4-6-22 Kannonshin-cho, Nishi-ku, Hiroshima-shi

Tsuneto Hiromi Hiroshima Research Lab., Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. 4-6-22 Kannonshin-cho, Nishi-ku, Hiroshima-shi

Ichiro Yamashita Hiroshima Research Lab., Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. 4-6-22 Kannonshin-cho, Nishi-ku, Hiroshima-shi Applicant:

Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. 2-5-1 Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo

Agent:

Takehiko Suzue, patent attorney, and 2 others

[There are no amendments to this utility model.]

#### <u>Claim</u>

Fine powder manufacturing apparatus using a laser with a reaction container, plural gas injection nozzles that inject a reactive gas and are located on a wall surface of the reaction container, and plural filters that collect the fine powder and are located on the wall surface facing said nozzles of the reaction container; characterized in that a laser beam passes through an area right above each gas injection nozzle in order.

### Detailed explanation of the device

Industrial application field

This device pertains to an improvement for an apparatus for manufacturing fine powder using a laser.

#### Prior art

Figure 2 is a diagram illustrating a conventional fine powder manufacturing apparatus using a laser.

In the figure, (1) represents a reaction container. This reaction container....

(Japanese Patent Application No. 537671/98)

Defects of a prior art are as follows;

- 1. The laser energy which has not been used for reaction is absorbed by a damper 10, converted into heat energy and then abandoned. Thus, energy efficiency is disadvantageously low.
- 2. Only particles of the same particle size and of the same type can be produced at a time.

An object of this device is to provide a particle production apparatus by using laser which can enhance energy efficiency and can produce particles of different particle sizes and different compositions with a single apparatus.

⑩日本国特許庁(JP)

①実用新案出顧公開

@ 公開実用新案公報(U)

昭61-67836

@Int.Cl.4

識別記号

庁内整理番号

母公開 昭和61年(1986)5月9日

B 01 J 18/12

Z-6812-4G Z-6812-4G

警查請求 未請求 (全 頁)

❷考案の名称

レーザによる散粉末製造装置 A particle

の実 顧 昭59-152077 ₩ 頤 昭59(1984)10月8日

位考 窦 者 吉 田

之

広島市西区観音新町 4 丁目 6 番22号 三菱重工業株式会社

広岛研究所内

広 実 丑 広島市西区観音新町 4 丁目 6 香22号 三菱重工業株式会社

広島研究所内

砂考 案 者

広島市西区観音新町 4 丁目 6 番22号 三菱重工業株式会社 広島研究所内

人 觀 出⑰ 三菱重工菜株式会社

東京都千代田区丸の内2丁目5番1号

②復代理人 弁理士 鈴江 武彦

外2名



明 細 掛

### 1.考案 0 名称

レーザによる徴粉末製造装置

### 2. 実用新案登録請求の範囲

### 3. 考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本考案は、レーザによる優粉末製造装置の改 良に関する。

### 〔従来の技術〕

従来、レーザによる微粉末製造装置としては、 第2図に示すものが知られている。

図中の1は、反応容器である。 との反応容器

338



1の倒部には、2個の光学窓21 - 22 が対には、2個の光学窓21 - 22 が対部には、2個の光学窓21 - 22 が対部には、1のでは、1のでは、1のでは、1のでは、1のでは、1のが設けられている。同様が1のでは、1のが設けられている。同様には、1の外側で光学窓21 のが設けられている。

こうした構造の装置において、第1のノズル6から反応性ガス3を噴出し、この反応性ガス3を噴出し、この反応性ガスコの吸収液長に一致しているレーザビー派(CO2レーザビー派)11を光学窓2,から通すことによって反応を起こさせ、前記粉末8を製造する。ない、第2のノズル1から不活性ガス4を噴出し、これにより粉末8をフィルター9に運び、集収

する。

「考案が解決しようとする問題点〕 しかしながら、従来要置は、次に示す欠点を 有する。

- ① 反応に利用されなかったレーザエネルギーは、ダンパー10に吸収されて熱エネルギーに変換されて拾てられる。従って、エネルギー効率が悪い。
- ② 一度に単一の粒径および単一種類の粉末 しか製造できない。

本考案は上記事情に鑑みてなされたもので、 エネルギー効率を向上するとともに、一台で異 なった粒径、組成の粉末を製造し得るレーザに よる粉末製造装置を提供することを目的とする。

# [ 考案が解決しようとする問題点]

本考案は、反応容器と、この反応容器の一壁面に設けられた反応性ガスを噴射する複数のガス噴出ノズルと、同反応容器の前記ノズルと対向する壁面に夫々設けられた微粉末集収用の複数のフィルターを具備し、レーザビームが前部



各ガス噴出ノズルの直上近傍を順次通過するよ うにすることによって、前述した目的を達成す ることを図ったものである。

#### 〔作 用〕

本考案に係るレーザによる粉末製造装置は、 次の2通りの場合が考えられる。

- ① レーザエネルギーが十分大きな場合; 複数のガス喰出ノズルと、これらと失個 対をなす粉末集り、ターションをを 設けることにより、余別レーザエネルの 設けるにより、余別レーザーを もに、前記ノズルの喰射圧力を変せる により粉末の粒径を、また反症性が なたより粉末の組成を変える とによかできる。
- ② レーザエネルギーが十分に大きくない場合;

複数のガス噴出ノズル間に集光レンズあるいは凹面鏡を設けるととにより、レーザ ピームを集光し、前述した①の効果を得る ととができる。

#### 〔寒施例〕

以下、本考案の一寒施例を第1図を参照して 説明する。なお、本寒施例はレーザエネルギー が十分大きい場合に適用される。

図中の21は、反応21の側部には、2個の側部には、2個の間には、2個の間には、2個の間には、2の側部には、2の間には、反応性が、反応性が、反応性が、反応性が、反応性が、では、反のでは、では、ないのでは、では、ないのでは、では、ないのでは、では、ないのでは、では、ないのでは、では、ないのでは、では、ないのでは、では、ないのでは、では、ないのでは、では、ないののでは、ないではないのでは、ないのでは、ないのではないいのでは、ないのではないいのでは、ないのではないいいいではないいでは、ないのでは、ないい

30が設けられている。

とうした構造の装置において、反応性ガス 2 3 に SiH<sub>4</sub> と NH<sub>3</sub>の混合ガスを、不活性ガス 2 4 に Ar を用い、レーサピーム 3 1 は CO<sub>2</sub> レー ザピーム(波長 1 0.6 μm)とすると、ガス噴出 ノズル 2 4 から噴射された反応性ガス 2 3 は CO<sub>2</sub> レーザピームエネルギーを吸収し、

 $3S1H_4 + 4NH_3 \rightarrow Si_3N_4 + 12H_2$  …(1) たる反応を生じ、 $Si_5N_4$  微粉末を形成する。そして、生成した微粉末は不活性ガス24によりフィルター291~29nに選ばれ集収する。

8

なお、上記実施例は、レーザエネルギーが十 分大きを場合について述べたが、前述した式(1) の反応に必要なレーザエネルギーの密度は ~ 1 0<sup>5</sup> W/cm<sup>2</sup>である。従って、レーザエネルギー が十分大きくない場合は第3回または第4図の よりに構成する。即ち、第3図は各ガス噴出ノ ズル261~25n間に集光レンズ32…を設 **置し、ノメル直上を通過するレーザのエネルギ** - 密度を上げよりとした構造のものである。-方、第4図(上面図)は、複数の凹面鏡33… によりノズル直上を通過するレーザのエネルギ 一密度を上げようとした構造のものである。と **りした第3図又は第4図の装置によれば、ガス** 噴 出ノ ズ ル 2 5 <sub>1</sub> ~ 2 5 n の 反 応 性 ガ ス 2 3 の 種類や圧力、レーザピーム集光特性を変えてエ ネルギー密度を制御することにより。粉末の組 成や粒径を変えることができる。

〔考案の効果〕

以上詳述した如く本考案によれば、エネルギー効率を向上するとともに、異なった粒径、積

類の粉末を製造し得るレーザによる粉末製造装 置を提供できる。

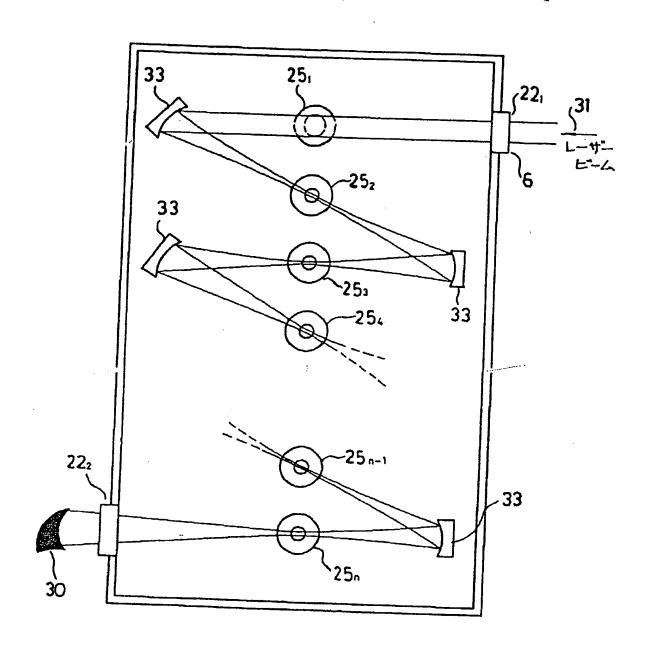
#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案の一実施例に係るレーザによる粉末製造装置の説明図、第2図は従来のレーザによる粉末製造装置の説明図、第3図又は第4図は本考案のその他の実施例に係るレーザによる粉末製造装置の説明図である。

21…反応容器、28…光学窓、23…反応 性ガス、24…不活性ガス、251~25 n… ガス噴出ジズル、261~26 n…館1のノズ ル、271~27 n…第2のノズル、28…生 成した粉末、291~29 n…フィルター、 30…ダンパー、32…集光レンズ、33…凹 面観。

出願人復代理人 弁理士 鈐 江 武 彦

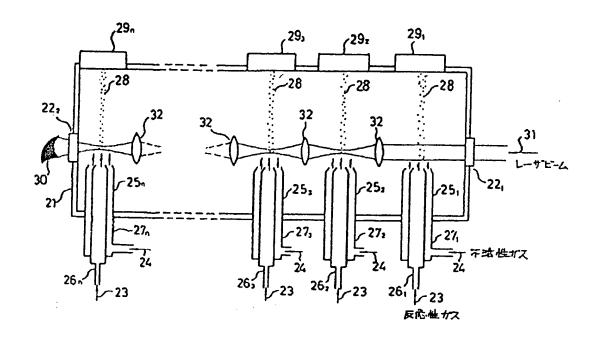
**E** 



348

出 願 人 三菱重工業株式会社

#### 如 3 図



347

出 願 人 三菱黛工業株式会社 復代理人 幹 仁 武 · 豪

100